松本清志の
WONDER LIFE SCORE
音とオブジェ／表現の王国
2014.4.9wed-13sun 大倉山記念館ギャラリー

2012年４月12日他界したチェロ奏者・アーティスト松本のあれやこれや。
物を作る。音を創る。コンピュータを操る。遊ぶ、調べる、食べる、笑う。幾重にも重なる楽譜のように、
同時進行するワンダーライフは奇妙だが愉快で美しい不協和音を奏でていた。
時は丁度３回忌。桜の頃に会いに行こう！

回顧大法事展

マツキヨの“道草”

チェロ奏者のマツキヨ(愛情を込めてこう呼ばせていただきます)が、あちらに旅立ってから、早くも丸2年が過ぎようとしている。今回、まさに彼の命日をはさんで「大法事」と銘打った回顧展が行われる事になった。

マツキヨは、音楽分野にとどまらず、どのようなジャンルにも旺盛な好奇心を携えつつ「表現の王国」へとあしを踏み入れ、その深遠な領域を彷徨いながらも、大いに“道草”を楽しんだ人であった。

生前の彼は、自らの表現上の足跡を残す作業にあまり関心がなかったように思う。しかしながら、持ち前の 職人気質は、多くの映像や録音記録とともに多彩なオブジェを残した。

これら一群のオブジェを見ていると、本人を知る人なら、彼がいつも自作をお披露目するときに見せる、まるで珍しい甲虫を見つけた子どもが喜々として大人に報告するときような、少々得意げで人懐っこい笑顔がすぐにでも浮んでくるに違いない。

マツキヨのオブジェの特徴は、どれもが作者の人柄を表すようなユーモラスさ(おかしみ)を備えている点にあるが、そこには我々の脳の深部にある扁桃体をチクリと刺激する“狂気”のスパイスも含まれている。

今回の展覧会期間中には、本人の演奏記録に加えこれらのオブジェを使ったインスタレーションの再現、さらに友人の美術家や音楽家たちによるオマージュの展示やパフォーマンスがくり広げられる。

もっとも、マツキヨ本人はこちらの企てをよそに、あちらの世界でいつものように独り何事かに夢中になっているに違いないのだが…

三品隆司　美術家

Translation

過去に演奏した音と映像を再生し、同時に即興演奏する為の演奏システム。
観客は過去と現在が混ざりあった映像と音を聴く。毎回ビデオに録画して次回の演奏で使用することで連続性を持ち、時間と場所を超越する。1980年から22回繰り返された。